

私の仕事の履歴書—その 2

香取 良和 (東京江東クラブ)



豊洲での造船業界*1

17 歳ぐらいで大きな仕事は出来るわけがない。大きな仕事は無理だが、大きな会社はどうだと石川島重工に勤めた。



石川島は、大手町に本社、月島に第一工場（現在は高層マンション群）豊洲に大型船ドックのある第二工場（現在はららぽーと等）、その向かいにボイラーなどを造る第三工場（現在は、芝浦工大、豊洲北小学校）があり、私は第三工場の製缶三課に勤務した。仕事は社外工の勤怠管理と事務用品などの手配いわゆる雑役である。石川島の創業は嘉永六年と古く、私が勤務した当時は播磨を合併してなく石川島重工業である。当時の社長は石川島播磨、東芝の社長を歴任後、経団連会長を二期務め、請われて第二次臨調会長として国の財政再建に大蛇を振るい、土光臨調で名をはせた土光敏夫氏である。

私も他の職場へ連絡に行く途中、工場を視察に訪れた土光社長をお見かけし、お辞儀をした事があり、今でもその時の情景が思い出される。

私の職場は、ボイラーの製缶工場に隣接した事務所。男性ばかりである。当時からスポーツは盛んで、昼は正午のサイレンが鳴ると同時に食堂のある建物までダッシュ。早飯でソフトボール(時々部別対抗) や卓球、テニスの真似ごとなど天気さえ良ければ運動をした。仕事は楽しいし面白い事

もあった。

或るとき事務所に 2 名の来客があった。担当の N 先輩が自分の机のところで対応し、机の上の名刺の箱から、おもむろに蓋を取ると名刺の上に「衛生サック」の袋があり、本人も「あつ」と絶句。客も笑うに笑えず、隣席の小生は下を向き口を押さえてその場を離れ室外へ・・・後で部屋中大爆笑。

初めてのお座敷体験*2

当時の豊洲は陸の孤島、交通手段は東京駅からのバスのみ。バス代節約のため毎日歩いて通勤、有楽町から勝鬨橋経由で豊洲まで40分である。帰りは月島を経て“佃の渡し”で明石町の高校へ。就業後、有楽町まで歩くが全然苦ではなかった。

会社では時々大型船の進水式がある。ドックで陸に向かって大きな船体が横たわり、船台と船の間に油脂の様なものを詰め、式典でドックの後ろを開くと船尾の方から水が入り、油脂らしき物が溶け巨体が滑り下り水面に浮かぶ、まさに壮観である。日本の造船業界は、昭和31年から8年連続世界一位、経済成長の担い手であった。現代の様にコンピューターは無く、排水量など全ての計算は、計算尺や、タイガーなどの卓上計算機(桁を合せ手で回す)で行っていたが大変な労力

であったと思う。私の様な夜学生は 10 人位いたが或る日、5時終業であるが「香取君は今日残業」で他の学生は退社、ミスでもしたかなと考えていると、

「今晚忘年会だ、未成年だけど関係ないな？」

「はい」

なぜ私だけと思いながら、月島近辺のお座敷割烹へ、座敷で御膳の酒食など生まれて初めて、酒を注がれるままに飲む、当然酔う。トイレに行きたくなり、目の前のお膳を跨ごうとするが跨げない。やっと四つん這いになり跨ぎフラフラしながらトイレに・・・宴会初体験。

これに味をしめた悪い先輩に連れられ、夜の楽しい思い出もあった筈だが肝心なところは記憶が薄れ

ている。そんな先輩から、夜間の大学を出て正社員になるか？の勧めもあったが、大企業は、学歴、実力、運が備わらねば出世は望めずそろそろ潮時かな・・で高三の途中で退職。

文具・事務用品の世界へ*3

さて、次何をするか？これを考える時が結構楽しい、学校の募集の掲示板に「文具・事務用品の納入業（㈱日進堂）」があった、高校もあと一年半、卒業までいろいろ試そうと訪問、場所は築地、晴海通りと市場通りの交差点の角、現在は綺麗なビルだが当時は、戦前は病院だった木造二階建てのおんぼろビルの二階、まあ様子見と勤めることにする。

仕事は自転車で事務用品の配達である。今でも覚えているが、最初の配達が丸の内の日本食品加工（㈱「ペン先10グロス」単価400円が納品書に270円とあり安すぎ？書き間違いと思い電話を借り、会社へ電話を入れたら「余計な事をするな」と怒られた。

日進堂は社員16名の同族会社だが当時、国鉄・トヨタ・鹿島・住商・東銀・北拓・三菱化工機・大同製鋼など結構良い得意先を持っていた。私の担当は、品川の東京トヨペット本社、同虎ノ門営業所、同池袋営業所、小岩の大同製鋼、向島の日本電線、首相官邸下の日本電機工業会等。雨の日は合羽だ。ペダルをこぐ度に隙間から雨が入り濡れる。きつかったのは池袋への護国寺の坂、石畳で走りにくく都電と車で路は狭くなり最悪。

当時池袋営業所の隣が巣鴨刑務所、所内で行進や作業をしているのを毎週見ていた。小岩の大同製鋼から青砥へ周り、向島の日本電線のコースも夏は厳しい、築地からランニングシャツで走り着いてから開襟シャツを着る。それでも汗と埃で一日でシャツの襟は黒くなる。当時猿江公園のグランド脇でアイスクャンデーや氷水（いちごやメロン）を一杯5円売っていて必ず立ち寄った。

東宮御所へも納品*4

50年以上前はパソコンは無く、経理は帳簿・そろばん・ペン先、公文書は和文タイプ。英文タイプに国産はなくオリベッティ、製図はT 定規・コンパス・計算尺の時代である。私の知る限り電卓はシャープが最初、大きくて重かった。ボールペンもゼブラの透明軸、佐々木信也の「見える、見える」から普及した。私は毎日コースで、品川のトヨペット本社から虎ノ門へ向かう途中、札の



辻を左折し飯倉方面へ行くと正面の深い木立の上に突如、鉄塔が出現。それが「東京タワー」だった。まさに「オールウエイズ3丁目の夕日」の世界であった。思えば、1958

年完成の東京タワーを自転車で見上げ、54年の歳月を経て今度は自宅から「東京スカイツリー」の完成を見届けることが出来、感無量である。

もう一つの思い出は、昭和34年の今上天皇の御成婚に備え、東宮御所を建築中（得意先が設備を受注）、33年～34年ごろ配達の為、毎週のように通った事。皇軍警察が警備をしているが顔見知りになると暇なものだから「オッ 又怪しげなのが来たな、こっちへ来なさい」「怪しい訳無いじゃないですか、勤労学生ですよ、高校出たら皇軍警察に入るかな、暇そうだから」と言う嬉しそうに「残念だな、身長制限があるんだよ」などと他愛もない会話を楽しんでいた。

仕事とはいえ東宮御所をほぼ完成まで見る事が出来、ご成婚の時、日比谷で馬車のお二人へ心からお祝い申し上げた。夜間部は4年制の為、昭和34年高校を卒業。4年間いろいろな仕事をしたが卒業後の進路は？少し考えたが結論は、今の会社で頑張ろう。卒業と共に配達から営業に昇格した。勤務時間の関係で夜間大学の選択肢も厳しく、中大法科の通信課程を受け、夏のスクーリングに

も通った。通信で2年、3年から夜間に編入し、最終年度を昼間部、などと不埒な考えが、ちらりと頭をよぎったが、次第に仕事も多忙になり、大して向学心も無い事を自覚していたので、大学は諦め仕事に専念。

営業も自転車からオートバイに(ホンダのベンリー・ドリーム)景気上昇と共に車も「ミゼット」から「スズライト」当時の車は故障が多く、いろいろトラブルも経験したが、構造を知るうえでは役立った。

独立への準備*5

会社も築地から銀座2丁目に移転するなどいろいろあったが年の経つのは早い、27歳の半ばになった時、営業職は8人おり、私は売り上げは断トツだが、若さと縁戚でないため給料が一番安い。これで独立を決意し、目標を30歳と定めた。

まず資金である。200万円を目標に100万円貯め、残りは銀行融資を、と計画し、当時手取り8万円の給料から5万円を生活費に、と母に渡し、残り3万円の内2万5千円を貯金するが目標達成にはバイトするしかなく、消火器の販売をやろうと消防設備士の資格に挑戦、学科は簡単だが、問題は実地、試験は消防庁で行われ、消火器の薬品を匂いで当てる?順番に行うので、早く終わった受験生に試験内容を教わり、不得手の実地もパスし資格取得。

休日や営業の途中、消火器の販売や詰め替えの注文を取り始めた。これが面白い。アパートや町会、企業を訪問し、消火器の有効期限を調べ、詰め替えや新品を売る。

人間誰しも失敗はある。会社で、或るとき同僚のE君が、ちょっとトイレへと、私も直後に後を追った。男性用は大・小各2あるが、大が一カ所塞がっており、E君は大だなど私は小を済ませ、手を洗いながら「おう、真面目にやれよ」と上の空間から水を2~3回ほど掛け外へ出ると、E君

がいる。

「トイレじゃないのか?」聞くと「社長が入ったから、後で」・・・あれは社長か・・・。

西銀座の古いビルで、新規開拓に社名を見ず、ある部屋へ。ちょっと雰囲気は違うが、まあ良いか、で話をすると「いいよ、坊やジャンジャン持ってこいよ」と皆で嬉しそう。一旦部屋から出て社名を見ると「M葉会」、おっと一組事務所か、中に入り「すみません」・・・

消火器では、銀座の新田ビルという古いビルで詰め替えを受注。4階の水回り(昔はトイレにモップを洗う場所あり)で泡消火器(内筒と外筒の液が混ざり泡を出す)20本集め、まず、内筒の液を全部流し、よく水を流し・・・もう大丈夫と外筒の液を流す。最初は順調だったが7~8本目でポコポコッと異音が生じ、そのうち水捌け口から泡が・・・出るわ出るわ、それこそ泡くったがもう遅い。管理人には怒られ、後処理に数時間。

また葛飾区金町で、従兄が開業医を営んでおり、その紹介で町会の消火器を受注、使用説明のため町会の人を集め、木を積み重ね、ガソリンをかけ火をつける。普段は離れた所から紙を丸め火を付けそれを放る。しかしその日は二日酔い。傍でしゃがみマッチを擦った。あっと思った時はもう遅い。気化されたガソリンの火で髪は焦げ、顔はヒリヒリ、腕の毛も無くなる。「こういう失敗もあります」と平気を装い、使用方法を説明しながら火を消し、終了後、従兄の医院で顔と腕を、お白粉のように薬を塗りたくられる。

*1 東京江東クラブブリテン:2012年6月号掲載

*2 *3 *4 *5

東京江東クラブブリテン:2012年8月号掲載